

小学生：一人2ドル×12ヶ月＝24ドル（約2,880円）

ハイスクール生徒：一人1年220ドル（約26,400円）

小学生については、送金額と会費収入との差額は、1ドル＝100円時代が終わり、円安が定着したために出たものです。

ハイスクール生徒の場合は、ビラーン族の状況改善にはコミュニティーのリーダーを育てることが急務とのCMBの方針に全面的に協力するために、送金額を決めました。会費収入との差額は、教育費全般へのご寄付を充当させていただいております。

ハイスクールの場合、奨学金を受ける条件は、卒業後、あるいは、カレッジ卒業後、教師、看護婦、農業指導員などとしてビラーンのコミュニティーに戻って仲間のために働くこととなっています。

現在15名の奨学生達は寮の庭でうずららを飼ったりして、自分たちの生活費を稼いでいますが、町のハイスクールは授業料だけで、年額36,000円から44,000円かかるため親にもできるだけ負担を求めています。

なお、これまで教育費支援をお申し出の方には、自動的に奨学生を紹介させていただきましたが、希望されない方もおられるので、今後は、全体支援か、奨学生希望か伺わせていただく事に致しました。

会の組織化：

全員参加の活動を考えてまいりましたが、現実問題として、現地その他の情報すべてを皆様にお知らせしてご相談することは難しいとわかりましたので、運営委員会を設置することにいたしました。「通信」7号でご協力お願いしましたところ、以下の皆さんに参加していただけることになりました。

来年6月までに、役員任期を含めて会の規約を整備する予定です（昨年の発足時に簡単な会則は用意しましたが）。それまでの暫定的役員会としたいと思います。

代表：山崎登美子（神奈川） 運営委員：篠原貞義（香川） 橋本あき応（千葉） 高橋剛（新潟）

会計：甲斐京子（神奈川） 会計監査：藤川豊（山口） 事務局スタッフ：福原三枝子（神奈川） 山崎登美子

なお、現地情報に大変詳しい会員の金野正晴さん（東京）にはアドバイザー役をお願いしました。金野さんからは早速、現地ジャーナリスト作成のトゥモロックなどのビデオテープ4巻（使用言語は英語）をいただきました。貸し出しをしておりますのでご希望の方は事務局にお申し下さい。

今後の活動方針：

医療の充実のほか教育の普及、経済的自立支援は続けるが、無理をしないでゆっくりやろうということになりました。

医療支援、教育支援などの定期送金はできるだけ会費収入以内で！ただし、送金額を今減らすと、ゆっくりですが順調に進んでいる現地の自立に向けての事業に支障がでるため、会員増加の努力を続けつつ、寄付依存率を少しずつ減らしていきたいと思っております。

ご寄付は、それぞれの趣旨に沿って、現地住民の経済的自立、環境保護に関わる事業支援に使い、自己資金の準備が整ったら各種政府補助金なども活用したいと思っております。

INFORMATION — お知らせとお願い —

§ 小学生7名、カレッジ学生1名、支援して下さる方を探しています §

8月訪問時に預かってきた奨学生候補リストのうち、まだ、8名の支援者が決まっています。